

現在その関野 貞関係資料を、文化遺産研究部の歴史研究室が中心となって整理しています。整理してみると、彼が作成した野帳・図面類などに興味深い資料が多くありました。それらは、明治時代における奈良所在の文化財の現状を記録したもので、現在では失われてしまった情報も含まれており、たいへん貴重なものです。

例えば平城宮の現況図は、まだ史跡指定される前の平城宮跡を詳しく記録しています。当時の状況を知る上でも、また、彼の学説形成を知る上でも、またとない資料といえます。

現在、整理作業はまだ緒についたばかりです。今後ここからどんなことが分かるのか、楽しみにしながら少しずつ作業を進めています。

(文化遺産研究部 吉川 聡)



額安寺の明治時代現況図調査風景

関野 貞の関係資料

奈良文化財研究所は、明治時代の建築史学者である関野貞(1868～1935)の関係資料を所蔵しています。関野貞は奈良県の技師として奈良県の古社寺などを精力的に調査し、現在の奈良の古代建築史学・文化財保護行政の基礎を作った研究者です。また、彼は平城宮・平城京研究の第一人者としても有名で、平城宮第二次大極殿・朝堂院の遺構を発見し、平城宮・京について近代歴史学の立場からはじめて本格的に検討しています。彼の平城宮研究は、学位論文「平城京及大内裏考」にまとめられており、この論文こそが、現在の平城宮・京研究の直接の基礎となっていると言っても過言ではありません。

奈文研所蔵の関野貞関係資料は、彼の日記・原稿などです。これらはご子息の関野克氏が所蔵してきましたが、当研究所が奈良の文化財にたずさわっている縁により、2000年1月に氏より寄贈を受けたものです。